

史料編

片山家文書（秩父市中町片山誠二郎氏所蔵）

史料一

〔年月日欠 大宮郷宝永七年改事〕

武州秩父郡大宮郷

宝永七改事

寛永十二乙亥五月御纏入五月五日夕十二日迄

寛文三癸卯年御領分ニ成ル

明暦元乙未高篠山横瀬村今切畑願ニ付、大宮郷分永巷貫式百文指上候ニ付指

留、町長九丁半、町並本人家百五拾三軒

高式千貳百貳石三斗八升五合

外七拾八石七斗八升五合

新高四百四拾四貫四百七拾七文

田高七拾七町八反六畝拾九歩

畑高三百五拾八丁三反三畝廿九歩

寛文三癸卯十月阿部豊後守様御役人

池村八郎兵衛殿
奥浦寛右衛門殿

田畑御改

屋敷廿町四反八畝七歩

上木廿七貫貳百廿九文

永式貫八百四拾六文

内巷貫式百文

永三貫式百文

大豆拾六石六斗四升

漆三貫九百四拾六匁六分

荏八石貳斗貳升

大宮郷人馬家数

家持本人五百七拾四人

惣男女三千貳百貳人

内

男 千六百八拾三人

女 千五百拾九人

家数合九百八拾七軒

店借り本人三拾貳人

馬数三百廿七疋

鉄炮三拾五挺

享保拾九寅年 武山・橋立 両影森江被 仰付

郡奉行 須藤太郎兵衛殿

高橋六兵衛殿

吟味役 平野武兵衛殿

頭取 平川

宝永七

高巷万千六百八拾五石四斗五升五合

内 秩父廿七ヶ村

高九千九百八拾四石五斗三升

内 十九ヶ村

高千六百八拾四石九斗八升五合

内 寺尾 田村 薛田

残而 高八千貳百九拾九石五斗四升五合 十六ヶ村

大宮郷 両影森村 浦山村 上田野村 日野村 白久村

別所村 久那村 三沢村 黒谷村 大野原村 横瀬村

山田村 栃谷村 定峰村

高千七百石九斗貳升五合 風布 金尾 井戸

岩田 下田野 皆野

堀切 小柱 右八ヶ村

寺数合百拾五ヶ寺 秩父領

内拾七ヶ寺 大宮郷

天台宗一ヶ寺 浄土宗一ヶ寺 真言宗三ヶ寺 禪宗拾二ヶ寺
妙見宮神領五拾七石 御朱印地二入込御蔵屋敷有
御朱印地
八大宮社領拾石 御朱印地二入込御蔵屋敷有、御領分と境に
馬場有り

禪宗吉田村清泉寺客末

大林山 広見寺 寺領十石 寺内外

末寺三十四ヶ寺

禪宗 田村郷

円福寺 寺領三石

禪宗観音寺末 山田村

光明寺 寺領三石

外 右御朱印御書替頂戴之節村役人差添出ル

大宮郷寺院

禪宗建長寺末

金仙寺 寺内三反三畝拾歩

末寺九ヶ寺

禪宗広見寺末

見東院 寺内壹反六畝歩

同末

慈眼寺 寺内壹反九畝廿四歩

観音 江壹畝十八歩

満福寺 寺内壹反八畝歩

禪宗金仙寺末

地藏院 寺内三畝六歩

同末

少林寺 寺内四畝四歩

天台宗天竜寺末

常楽寺 寺内壹反一畝廿一歩

禪宗広見寺末

宗福寺 爪竜寺 竜石寺

万光寺 蔵福寺

浄土宗勝願寺末

惣円寺

禪宗南禅寺末

野坂寺

宝光寺末

福昌寺

真言宗十輪寺末

泉蔵院

大宮郷観音堂 九ヶ所 十一番 十二番 十三番 十四番 十五番

十六番 十七番 十八番 十九番

屋敷九畝廿九歩 宿太郎 御差置

同 壹反四畝拾壹歩 六左衛門 右同断

大宮郷橋数 廿式ヶ所 其所竹木持来

丈橋 柿沢橋 齊度橋 竹ノ鼻橋 中村 永田 阿保二ヶ所 桜木

大畑二ヶ所 神戸 宮地 藤井 熊木ノ諏訪 野坂

畑中ノ内道生二ヶ所

大宮郷溜数

井尻 相ノ田 金室 永田 現目 中村 坂水 日野田

越田五ツ 神戸 定林寺 峰沢四ツ

大宮郷之内

油免拾三箇所

史料二

〔延宝六年三月 江戸靴町医師花木齋庵宗旨人別手形〕

指上ケ申手形之事

一、江戸靴町拾壹町目ニ罷有候花木齋庵と申医師、拙者不適者ニテ御座候、御当地江通ニ罷越、相応之病人も御座候ハ、療治仕度旨奉願候、宗旨之儀ハ代々浄土新真旨ニテ江戸浅草新寺丁長円寺旦那ニテ御座候、則寺請狀取置申候、此者ニ付不依何事出入出来仕候ハ、拙者急度埒明可申候、右之通りニ被為指置被下候ハ難有可奉存候、以上

大宮町

延宝六年

午三月廿七日

同所名主

久左衛門印

十郎左衛門印

宮下八左衛門殿

水谷三郎兵衛殿

小野清左衛門殿

史料三

〔延宝六年一二月 畑地売渡し手形〕

売渡シ中畑手形之事

一、我等名之内山ノ神分下ニ而中畑巷反廿九步此永高百四文之所上末我等作り付候麦共ニ金子九両ニ唯今々永代實殿へ売渡シ申所実正也、右之畑ニ付わきシ誰成共かまい人無御座候、尤何共やから申者於有之ニハ加判之我等共急度申わけ可仕候、實殿へ少も御苦勞かけ申ましく候、加様ニ相定候上ハ来年末ノ年シ御年貢御役等實殿之名主方へ御勤メ可有候、為其反歩永付共ニ我等分之畠之高をぬき書付相渡し申候、為後日仍而如件

延宝六年午十二月廿七日

畑主新田町

甚兵衛印

同所証人

平兵衛印

名主

半左衛門印

大曾根久左衛門殿

史料四

〔年欠九月 渡辺三智由緒につき覚〕

覚

一、我々先祖六代以前渡辺筑後と申者、多氣之國首奉公仕、須ヶ瀬村不残其外隣郷高式千石致拜領、則当村ニ構在宅候〔今両家之屋敷是也〕、扱筑後子式人有之〔孫四郎・甚右衛門〕、嫡孫四郎儀 御当家へ罷出御旗本分ニ罷成、其子孫渡辺孫三郎と申而於尔今御役相勤罷有候、又舍弟甚右衛門者須ヶ瀬村地侍ニ而居住仕、我々迄六代罷成候、儘雖糺明家伝之書有之、略之、荒々書付越申候

勢州一志之郡須ヶ瀬村

九月日

渡辺三智殿

同清兵衛

佐勝（花押）

〔貼紙〕

「安蓮社三誓寿心居士

貞享五辰五月十五日逝去」

史料五

〔元禄一二年一〇月 畑地預かり手形〕

手形之事

一、此度親方江貴殿 ゆいしよ被致候下なつち之畑永四拾六文之所上木共
二指添、我等慥ニ預り申所実正也、就夫金子五兩私今度口合申候、何年
過候ても貴殿此方へ御引越住宅被成候ハ、右本金ニて五兩請取候ハ、
右之畑急度相返し可申候、為後日証人ヲ立手形進候所、仍如件

元禄十二年

本人

權 太 郎印

証人

已卯十月九日

九郎右衛門印

同

伝 吉印

親

助左衛門印

大宮町

玄 友

旨

史料六

〔享保元年 大曾根家図〕

大曾根家図

一、名護屋尾張守

外シヤク腹

同

子式人有之

卷人 大曾根口城主

卷人 小曾根口城主

紋平キ候卷本唐笠

氏平氏也

正保元甲申二月秩父へ住宅

大曾根久左衛門尉正国

新井四郎兵衛殿所へ参候

享保元丙申迄七十三年二成

一、延宝貳年寅ノ九月

正 利

久左衛門参候

日野田深田庄左衛門悴

享保元迄四十三年以前参候

史料七

〔宝曆一四年二月 片山玄友菓種穀物商内売掛金錢帳面讓渡し手形〕

差上申願手形之事

一、私儀表見世菓種穀物商内年来為仕来候処、伊奈半左衛門様御代官所秩父
郡上長留村名主藤七組下金左衛門と申者方ニ借り金出来仕、度々被及催
促ニ候得共、近年不勝手ニ罷成、金左衛門江相濟シ申候儀成兼、当時
難儀仕、依之私見世ニ而貸出シ候売掛親類之儀故達而無心仕、右金左衛
門方之借り金江私売掛金錢帳面ニ而相渡、勘定相濟申手段ニ仕候、右
金左衛門御他領者ニ御座候得者重而御裏 御判等頂戴可仕も難計奉存候
ニ付、御届ケ申上候、此段、御代官様江被 仰上可被下候、以上

大宮郷願人

宝曆十四年甲申二月

片山 玄 友印

演豊(花押)

御用番

高野七右衛門殿

前書之通吟味仕候所相違無御座候ニ付、奥印仕差上申候、以上

組頭

太郎兵衛

高野七右衛門

高橋銀右衛門殿

鶴見喜兵衛殿

史料八

〔文政八年 片山要人名跡へ嘉兵衛夫婦賣うにつき願書〕（控）

乍恐以書付奉願上候

一、当郷名主源四郎組下源右衛門抱嘉兵衛当西五拾七歳、女房五拾壹歳ニ罷成候、当郷茂十郎仲人ニ而右夫婦とも私名跡賣申度奉願上候、尤右之者宗旨之義ハ代々当郷浄土宗惣門寺且那ニ而御法度之切支丹宗門并悲田不受不施ニ而ハ無御座候、勿論私方江引越參候而も私同宗同寺右惣門寺且那ニ御座候、此段 御聞濟被成下奉願上候通被 仰付被下候ハ、難有奉存候、以上

御領分秩父郡大宮郷

片山要人跡

母 い ち（爪印）

助右衛門印

藤兵衛印

名主

武右衛門殿

前書之趣吟味仕候処聊相違無御座候、尤右之者宗旨請合手形右惣門寺分名主

武右衛門方へ取置申候、御用之節差上可申候、奉願上候通被 仰付被下候ハ、私共迄難有奉存候、以上

組頭

九郎左衛門印

名主

武右衛門印

御代官所

史料九

〔巳年三月 薬種問屋掟〕

掟

一、御公儀様御法度之薬種者不申及毒薬贖薬決而取扱申間敷候事
一、薬品之義者人之一命相拘り候間、元方性合吟薬致し成製細末別而念入、鹿末之品決而売出し申間敷候事
附り、錫鉛焰硝硫黄之類船積ニ致し候義前々より 御停止之通急度為懐可申事

一、近年諸国今新規薬商人仲買渡世之者唐物和薬ニ不限難売致し、疑敷品も売付候義有之候間、右体之商人来り候ハ者相断取引仕間敷候、仲間之内ニ而も不埒なる売買致し候者有之候ハ者、早々行事分可申候候事
一、当所産物和薬之儀者其年時之相場ヲ以毎年集会之節仲間一統相談之上高下無之様仕切可致候事

一、諸方問屋并仲間弘方究時ニハ急度差引可致候、御得意様方ニ而も二季御勘定相滞り候御方江かし売御断り申上候

附り、速国今来ル逗留・借家ニ不限、医師・画師・香具商人之類是迄度々不埒なる義有之候間、此度相改仲間一統かし売不仕候

右之通今般仲間一統相談之上議定取究申候、已上

巳

薬種 仲間

三月

行 司印